

王塚わうづか〔志水のひがし内里村うちさとの山にあり、継体天皇けいたいの陵なりといふ〕岩田いはた〔やはたのひがし一里余にあり。御霊社は此

里の氏神とす。万葉九の卷武部卿しきぶきやう字合の歌に、山品やましなの石田いはたと詠しは醍醐だいての南なり。又延喜式くぜこほりに久世郡石田いはたの神社とあれ
ば、両所と見えたり。宗祇は杵の辺とんあの西といひ、頓阿とんあは山科やましなを用ひらる、歌によつて其所を得べし〕

詞 花 山しろの石田の杜のいはずとも心のうちをてらせ月かけ 藤原為嗣

新拾遺 かり鳴て寒き朝や山しろのいはたのをのも色かはるらん 後 九 条